

教科	内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容別・観点別のクロス分析
国語 基礎	ほとんどの問題で、目標値、区平均正答率を上回っている。特に、資料と話し合いの内容を読み取る問題、5年の配当漢字を読む問題では、目標値を10%程度では、上回っている。しかし、5年の配当漢字を書く問題では4問中2問で目標値を下回っている。また作文の問題では、目標値は上回っているものの、区平均正答率は下回っている。	ほとんどの観点で、目標値、区平均正答率を上回っている。「読む能力」では目標値よりも8%程度上回っている。物語の場面の情景を読み取ることや説明文の内容を的確に読み取ることができる児童が多いと考えられる。解答形式が記述式になっている「書くこと」の問題、話し合いの内容を聞き取る「話す・聞く能力」の問題では、いずれも目標値、区平均正答率を上回っている。しかし、漢字の成り立ちや同音・同訓異字を使い分ける「言葉についての知識、理解、技能」の問題では、目標値、区平均正答率が下回っている。漢字を読んだり書いたりすることはおおむね出来ているので、漢字の指導をする際に成り立ちや同音・同訓異字の使い分けることに力を入れていく必要がある。	基礎については、内容別、観点別結果から見ても、おおむね定着していると考えられる。しかし、作文の問題では正答率が低く、苦手としている子供が多い。授業の中で、文章を書く際には、2段落構成で文章を書かせたり、自分の意見とその理由を区別して書かせていくことが必要である。
国語 活用	本校の活用問題の正答率は56%で、目標値と区平均正答率よりも上回っているが、基礎に比べると20%程度低くなっている。同音・同訓異字の漢字を使い分ける問題では、目標値が10%程度、下回っている。漢字の読み書きは定着しているが、同音・同訓異字を区別して使うことが苦手としている子供が多いと考えられる。	活用については、正答率は基礎に比べて低くなっていることから、活用を意識した授業改善をしていかなければならない。例えば、「言語についての知識・理解・技能」の漢字の学習では、同音意義語を区別して使うことができるように、日常的に短文や日記を書かせていくことが必要である。	
算数 基礎	ほとんどの内容で、目標値を上回っている。しかし、整数の仲間分け、図形の角・円周、合同・立体で下回ってしまった。また全国平均正答率、区平均正答率と比べると、多くの内容で下回ってしまった。特に整数の仲間分けと合同・立体についてはすべてで下回ってしまった。図形の角・円周でも低い結果が出ていることから、図形に関する理解が不足していることがわかる。	数学的な考え方の観点に以外、目標値率、全国平均正答率、区平均正答率をすべてで下回っている。特に「数量や図形」についての知識理解や技能では、区より1%、全国平均正答率より3%も下回っている。また「算数への関心・意欲・態度」では、すべての調査結果で下回っている。昨年度と比べると全体的に数値が低下していることを鑑みても、算数の学習に対して意欲的に取り組み、基礎的な知識をしっかりと身につけさせていく必要があると考える。	24年度と25年度を比較してみると、24年度本校で区の平均を下回った領域は、図形であった。区が67.5だったのが、本校は67.4だった。しかし今年度は区の平均(68.0)と一緒になった。きめ細やかな個別指導が実を結びつつあるのだろう。観点別では、数量や図形についての知識、理解は、24年度と25年度とも下回っている。本校の苦手な分野なのだろう。今後この分野の指導を工夫し児童に身につけさせていく必要がある。1時間の授業の最後に、振り返りを行い、ノートによかったこと、がんばったことを記述することで、学習への満足感を得られるようになってきている。
算数 活用	今回の学力テストでは、「量と測定」、「図形」からそれぞれ2問ずつ、「数と計算」から3問、トータル7問活用力の問題が出題された。「量と測定」の問題すべてと「数と計算」と「図形」の1問ずつは、目標値を上回っている。「量と測定」の知識・理解を生かせる児童が多いと考えられる。		